

2014年、
日本のまちに、
ワクワクする水辺をつくりだそう。



水辺の未来が動き出す!
ミズベリング・プロジェクト

水辺のアクションがもっと増えれば、 みんなのまちはもっともっと輝くはずだ。

なにやら、全国の水辺が、ゆるゆると元気になってきた。

カフェやテラスができたり、巨大アヒルが浮かんでいたり。

河川を管理する規制の緩和で、水辺のポテンシャルが一気に加速してきたみたい。

すでに元気な水辺の都市もあるけれど、

まだまだ水辺をとりいれてワクワクできる環境づくり、まちづくりはできるはず。

そこでミズベリング・プロジェクト、開始。

ミズベリング (MIZBERING)とは、「水辺＋リング(輪)」の造語であると同時に常に現在進行形“ING”の気持ちで、水辺とまちが一体になった美しい景観を未来へ創造しつづけるソーシャル・アクションワード。

みんなのアイデアとアクションが集まれば、日本の水辺は、きっと世界がうらやむ楽しくて素敵なまちになるはずだ。

ミズベリングの先進事例に学べ

1

「水都大阪」

「水都大阪」という、「水の都」としての大阪を復活させるプロジェクトをご存じだろうか？ 2011年から2020年までの長期プロジェクトで、「水都大阪 水と光のまちづくり構想」を掲げ、関西全体を元気にする「大阪の都市力の向上」を目標にしている。構想策定から10年間、水と光のまちづくりの取組みを推進するにあたり、市民・地域・NPO・行政等との連携をさらに強化。オール大阪で水辺の利用促進に励んでいる。



©千島土地株式会社

2

「水の都ひろしま」

広島市はまちの中心部を6本の川が流れている「水の都」。その恵まれた水辺を都市づくりに活かすべく、戦後間もない頃から水辺を緑地として整備してきた。今では延長25kmもの緑豊かな河岸緑地となり、美しい水辺が形成されている。水辺をもっと市民に使ってもらうため、市民と国・県・市の協働で「水の都ひろしま」構想(2003年)を策定。「水辺のオープンカフェ」や「水辺のコンサート」を開催、水辺での市民活動の促進、水上交通の活性化の推進などを行い、河川空間における市民や民間事業者の多様な活用が進んでいる。



規制緩和で、水辺は一気に開放へ。

河川は、水害から市民生活を守るという視点から、国や都道府県ごとに整備され厳しく管理されてきました。しかし昨今、水害対策だけでなく、水辺の美しいまちづくりを目指して規制緩和が進み、市民や民間のチカラ（カタイお役所では考えつかない知恵やノウハウ!）を積極的に活かそうと、全国の水辺は動き出しています。

商業ベースで水辺にカフェやテラスを設置したい! とか、イベントやコンサートをしたい! 等、

水辺を愛してやまない皆さんの思いや夢をカタチにする可能性は、日々高まっています。

ビルオーナー
+
店舗オーナー
+
行政の連携

私有地
+
公共財の融合

たとえば、
ランニング
エイドの設置

たとえば、
リバーサイド
カフェの運営

占用許可
エリアの活用

水辺が変わる。
まちが変わる。
ヒトがキラキラしはじめる。

水辺のアクションをみんなで起こせば、日本のまちはもっともっと輝くはずだ。

ミズベリング、5つのアクション

- ① つなごう 「水辺の未来」を考える人がつながれば、大きなムーブメントが始まるはずだ。
- ② かたろう 「水辺の可能性」をみんなで掘れば、思いも寄らないアイデアが浮かぶはずだ。
- ③ ためそう 「水辺でのチャレンジ」が増えていけば、世の中はもっと水辺に注目するはずだ。
- ④ つくろう 「水辺を通したまちづくり」が進めば、日本のまちは世界がうらやむまちになるはずだ。
- ⑤ 育てよう 「水辺での暮らし」をみんなで育てていけば、人生はもっと豊かになるはずだ。

【ミズベリング・プロジェクトとは】

かつての賑わいを失ってしまった

日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。

ミズベリングは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」

の造語。水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、

水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを生み出す

ムーブメントを、つぎつぎと起こしていきます。